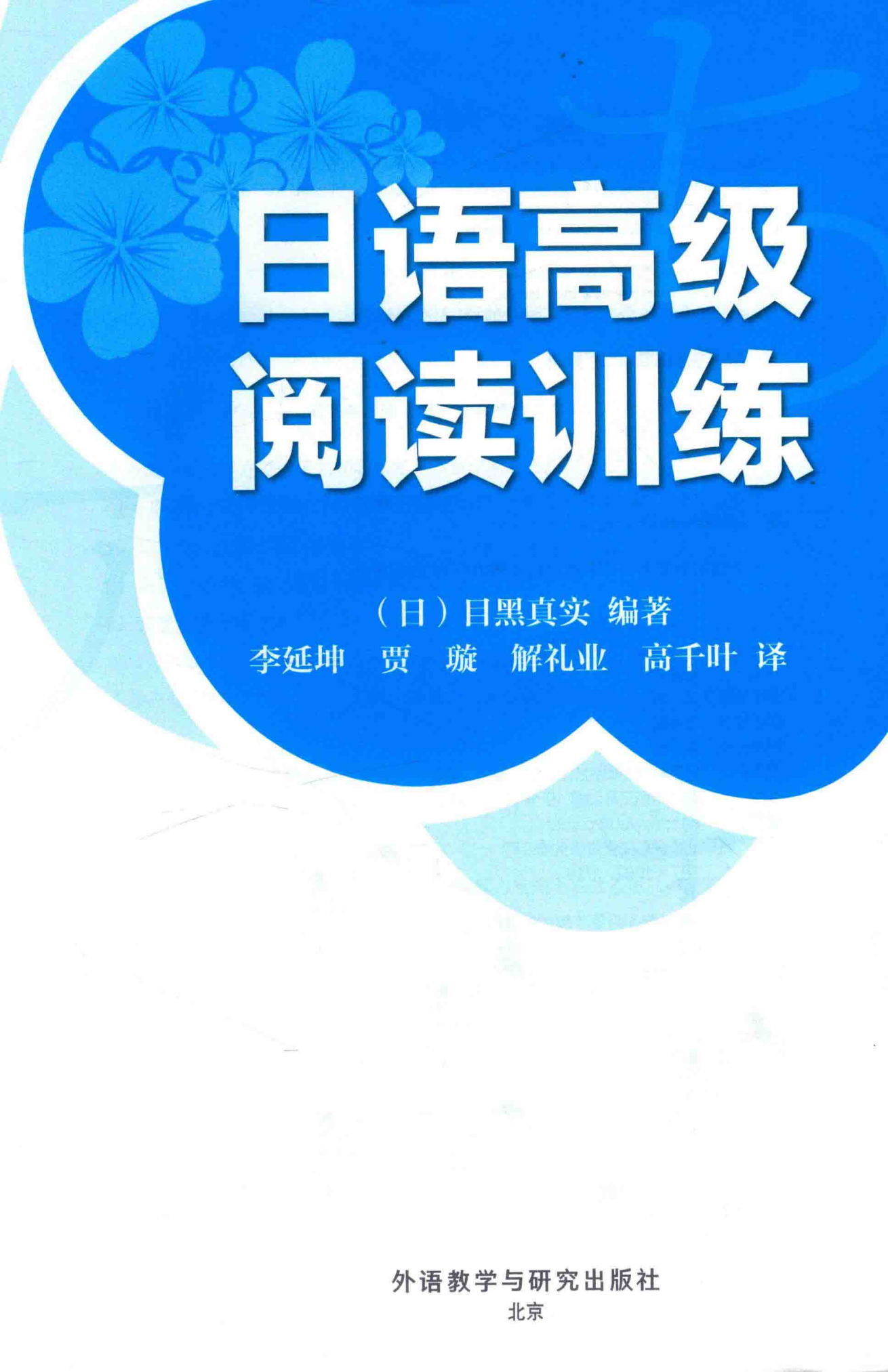


日语高级 阅读训练

(日) 目黑真实 编著

李延坤 贾璇 解礼业 高千叶 译

外语教学与研究出版社



日语高级 阅读训练

(日) 目黑真实 编著

李延坤 贾璇 解礼业 高千叶 译

外语教学与研究出版社
北京

京权图字：01-2012-6376

「試験に強くなる！ 上級学習者のための日本語読解ワークブック」目黒 真実 著
SHIKEN NI TSUYOKUNARU! JOKYO GAKUSHUSHA NO TAME NO NIHONGO
DOKKAI WORKBOOK by Makoto Meguro
Copyright © 2009 Makoto Meguro. All rights reserved.

This edition is published by arrangement with ALC Press Inc., Tokyo
through Tuttle-Mori Agency, Inc., Tokyo.
The original Japanese edition was published by ALC Press Inc.

图书在版编目 (CIP) 数据

日语高级阅读训练 / (日) 目黒真実编著 ; 李延坤等译. — 北京 : 外语教学
与研究出版社, 2018.12
ISBN 978-7-5213-0598-2

I. ①日… II. ①目… ②李… III. ①日语—阅读教学—水平考试—习题集
IV. ①H369.4-44

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2018) 第 292508 号

出 版 人 徐建忠
责任编辑 戚 新
责任校对 王晓晴
封面设计 高 蕾
出版发行 外语教学与研究出版社
社 址 北京市西三环北路 19 号 (100089)
网 址 <http://www.fltrp.com>
印 刷 北京虎彩文化传播有限公司
开 本 787×1092 1/16
印 张 21
版 次 2019 年 1 月第 1 版 2019 年 1 月第 1 次印刷
书 号 ISBN 978-7-5213-0598-2
定 价 55.00 元

购书咨询: (010) 88819926 电子邮箱: club@fltrp.com
外研书店: <https://waiyants.tmall.com>
凡印刷、装订质量问题, 请联系我社印制部
联系电话: (010) 61207896 电子邮箱: zhijian@fltrp.com
凡侵权、盗版书籍线索, 请联系我社法律事务部
举报电话: (010) 88817519 电子邮箱: banquan@fltrp.com
物料号: 305980001



记载人类文明
沟通世界文化
www.fltrp.com

はじめに

「上級読解ワークブック」は、上級の日本語学習者が読解力を高めるために作成された教材です。本著は、レベル的には2010年から実施される新日本語能力試験のN1(元1級に相当)に対応します。

さて、読解試験で問われているのは、「速く正確に読む」にはどうすればいいかということです。しかし、「速く読む」ということは「急いで読む」ことではありません。そのような読み方ではミスが増えて、誤答が増えるだけでしょう。

「速く正確に読む」ためには三要素が必要です。

- (1) 日本語の文章に慣れること
- (2) 正しい文法知識と語彙を増やすこと
- (3) 背景知識を増やすこと

これらの三要素を育てる最良の方法は多読です。さまざまな分野の文章をできるだけ多く読みながら、一步一步、文型、語彙、背景知識を増やしていくしかありません。

本著では、その効率を高めるために、14の分野に分け、各分野ごとにテーマ(四題)が取り上げてあります。問題を解き進めているうちに、分野ごとによく使われる語彙が身につく、基礎知識も自然に学べるようになっていきます。いろいろな分野の日本語の文章を読み慣れていること、それが一番の読解力を向上させる道なのです。

また、日本語能力試験の「読む試験」に含まれる文法項目を身につけるための単文づくり練習も取り入れてありますので、文法・文型学習としてもご活用ください。

目黒真実

前言

《日语高级阅读训练》是为了提高日语高级阶段学习者的阅读能力而编写的一本教材。本书的水平与 2010 年开始的新日本语能力考试 N1 级别相当。

在解答阅读题时，大家常常会问怎样才能“快速、准确地阅读”？其实所谓“速读”并非“急读”，“急读”只会增加失误、答错的概率。

要实现“快速、准确地阅读”需要三方面的能力：

- (1) 熟悉日语文章
- (2) 积累正确的语法知识和一定的词汇量
- (3) 了解背景知识

培养这三方面的能力最好的方法就是大量阅读，要阅读不同领域的文章，一点一点地积累语法、词汇和背景知识。

为提高效率，本书分 14 个领域，每个领域选取 4 个主题，让大家在解题的同时，掌握不同领域的常用词汇，自然而然地学到基础知识。熟读不同领域的日语文章，是提高阅读能力的最好途径。

另外，本书还加入了一些造句练习，以便大家能够掌握新日语能力考试中的语法知识，大家也可以把本书作为学习语法、句型的书来使用。

目黑真实

目次

一、日本語の世界	1
01 ヤマトコトバ	2
02 日本語の一人称はなぜ多い	8
03 方言の見直し	14
二、日本の文化	20
04 豊かな縄文文化	21
05 日本の仕切	27
06 羞恥心はどこへ消えた？	33
07 形の美	39
三、日本人の行動様式	45
08 赤信号、みんなで渡れば怖くない	46
09 「べた靴」現象とひきこもり	52
10 逆立ち現象	58
四、言語とコミュニケーション	64
11 社会と言語	65
12 「名づけ」という行動	71
13 言語の習得	77
五、異文化理解	83
14 異文化の狭間で生きる	84
15 迫られる意識改革	89
16 日本人の行動パターン	95
17 お箸の文化	100
六、環境と人間	105
18 暮らしの水	106

19	破局が来る前に	112
20	環境問題の発端	118
21	日本最後のトキ	124
七、ITと情報社会		130
22	情報社会に生きる	131
23	コミュニケーション下手の日本人	136
24	「情報伝達」という神話	142
25	○×式の弊害	148
八、生物と自然		154
26	植物の生き方	155
27	海の森	161
九、心理と哲学		166
28	固定観念	167
29	仮面の役割	173
30	自由であること	178
31	歴史とは何か	183
十、教育と学び		189
32	「個性」を煽られる子ども	190
33	学びの主体性	195
34	学ぶ喜び	201
35	躰と感化	207
十一、報道とマスコミ		213
36	犯罪報道について	214
37	報道写真の真実	220
38	メディアの虚実	226
十二、科学と技術		232
39	科学への夢は語れるか	233
40	科学の知	240
41	研究者の戒め	246

十三、現代の社会	252
42 貧困の定義	253
43 高度成長がもたらしたもの	259
44 高齢化社会のもう一つの視点	265
45 社会学とは何か	271
十四、余暇と娯楽	277
46 女子マラソン	278
47 メルヘンの知恵	284
48 一人旅の魅力	290
解答	297

一、日本語の世界



扫描二维码
查看译文

01 ヤマトコトバ

ヤマトコトバという古い言語の体系が確立した時代にはまだ日本には文字はなかった。^①そこへ漢字が中国文化を携えて輸入された。中国文明の中で大きいものは儒教と仏教です。われわれは漢字といっしょに、儒教や仏教や医学や薬学を受け取って、それによって日本の文明をつくってきた。だからどうしても漢字を学ぶ必要があったのでした。それが日本語の中の漢語を確かな位置に固定しました。

(a)、今から150年近く前にヨーロッパ、アメリカという全然違った文明が押し寄せてきました。明治政府は、法律にも科学にも医学にもヨーロッパの業績を学んで取り入れた。その時、生のままのヨーロッパ語を (b)、ヨーロッパ語を一度漢字に置き換えて、日本語の中にもちこむという技術を日本はもっていた。(c)、日本では、ヨーロッパのいろいろな概念をもちこむ (d) アジア諸国のような言語的な困難が少なく、^②アジアの中では最も早くヨーロッパを取り入れ、それに追いつくことができたのです。

歴史を見ると、日本は (e) の時代に、世界のトップクラスの文明を次々に輸入してきました。弥生時代には、南インドからお米・金属・機織・お墓作りを取り入れ、古墳時代には、朝鮮からさまざまな技術、飛鳥・奈良時代には、中国から漢字による多くの文明を輸入し、それによって【 ア 】。

日本人は非常に忠実に、「この言葉の由来は何か」ということを字で書き分けています。漢字以前のヤマトコトバは平仮名、中国文明から来た概念や言葉は、漢字で書いています。ヨーロッパ文明から来た言葉は片仮名です。

「うつくし」とか「あそぶ」とか、これは平仮名で書くヤマトコトバ。古くからあった言葉です。次に、中国から輸入された言葉、「観念」とか「愛情」とか、これは漢字で書く漢語です。漢語は現代日本語の単語の半分を占めています。「うつくし」や「あそぶ」を、「美し」「遊ぶ」と漢字で書くのは平安朝以後です。韓国でも漢字を使っていましたが、漢字は漢語にだけ使って、日本のような「美し」とか「遊ぶ」のような使い方はしませんでした。

明治時代以後ヨーロッパから、戦後はとくにアメリカから日本に輸入された単語は、片仮名で書きますから、カタカナ語と呼ばれます。新しい単語がぞくぞくと加わって、現在、非常な勢いで広まっています。私の見込みでは、^③何十年かのうちには、カタカナ語は漢語のかんりの部分に取って代わり、日本語の単語の構成要素の割合は

大きく変わると思います。しかし、平仮名で書く言葉は、それほど変わら^ずに使われていくでしょう。

平仮名の言葉は、毎日の基本的な、一般生活に密接^{みっせつ}に関係する基礎語が多く、その基礎語^{きそご}によって幼児や少年少女の知能や判断力の基本的な枠組み^{わくぐみ}が決定的に育^{はぐく}まれるからです。

(大野 晋^{おおのすすむ} 『日本語練習帳^{にほんごれんしゅうちよう}』岩波新書、1991年)

- (注 1) 漢語：昔、中国から伝わって日本語となったもの。
- (注 2) 弥生時代：紀元前 4 世紀頃から紀元後 3 世紀頃までの時代。大陸文化の影響を受けて、水稻農耕や鉄器、ガラス、絹織物などの技術が導入された。
- (注 3) 古墳時代：弥生時代の後の時代で、3 世紀末から 7 世紀までを指すことが多い。この時代に多くの古墳が作られた。
- (注 4) 飛鳥時代：古墳時代の終末期と重なるが、6 世紀末から 7 世紀前半までを指すことが多い。
- (注 5) 奈良時代：奈良に都が置かれた時代。710 ～ 784 年。
- (注 6) 平安朝：平安時代 (791 ～ 1192 年) の朝廷^{ちやうてい}。または平安時代のことを指す。
- (注 7) 明治時代：明治天皇が治めた時代。1868 ～ 1912 年。

選択式問題



問1 (a) ～ (e) の中に入るものとして、最も適当なものはどれですか。

- | | | | | |
|-----|-----------|-----------|----------|-----------|
| (a) | 1. そこで | 2. ところが | 3. したがって | 4. すなわち |
| (b) | 1. 使わず | 2. 使って | 3. 使えば | 4. 使おうと |
| (c) | 1. そのせいで | 2. そればかりか | 3. それなのに | 4. その結果 |
| (d) | 1. にもとづいて | 2. にかかわらず | 3. にあたって | 4. にしたがって |
| (e) | 1. それぞれ | 2. たまたま | 3. そろそろ | 4. めいめい |

問2【 ア 】に入るものとして、最も適当なものはどれですか。

1. 生活を^{てんかい}展開させてきました
2. ひらがな、カタカナを生み出しました
3. 世界第二位の経済大国になりました
4. 外来文化を吸収してきました

問3 本文の内容と合っているものはどれですか。

1. 現代の日本語は、ヤマト言葉の体系の中に、中国から来た言葉（漢語）や欧米から来た言葉（カタカナ語）を取り入れることで成立している。
2. カタカナ語は欧米から輸入された語を表すときに使われているが、今後も増え続け、将来、漢語の語数を超える可能性がある。
3. 日本以外のアジア諸国には、欧米から取り入れた新しい概念を漢字に置き換える技術がなかったため、近代化が遅れた。
4. 日本がアジアの中でいち早く産業革命や近代化を実現できたのは、欧米の進んだ技術や文化をカタカナ語にすることができたからである。

記述式問題



問1 ①「そこへ漢字が中国文化を携えて輸入された」とありますが、文中の「そこ」は何を指していますか。7字以内で書いてください。

--	--	--	--	--	--	--	--

問2 ②「アジアの中では最も早くヨーロッパを取り入れ、それに追いつくことができたのです」とありますが、筆者は、ヨーロッパに追いつくことができた理由はなんだと考えていますか。

筆者は _____
_____ からだと考えている。

問3 ③「何十年かのうちには、カタカナ語は漢語のかなりの部分に取って代わり、日本語の単語の構成要素の割合は大きく変わります」とありますが、筆者は、将来どのように変わると考えていますか。

筆者は _____
_____ と考えている。

口述式問題

問1 あなたの国では、外来語をどのようにして母語に取り入れていますか。例を挙げて話してください。

問2 筆者は、日本語に占める平仮名で書く「和語」の割合があまり変わらないと述べていますが、それはどうしてですか。

単語メモ



ヤマトコトバ：和语

たずさ
携える：携带；携手

～によって：通过～（方法）

お
よ
押し寄せる：涌入

と
い
取り入れる：引进，采用

生のまま：直接，没有加工的

～ず：不～

も
こ
持ち込む：带入，拿进

～に当たって：在～的时候，在～的情况下

～わけだ：当然～，自然～

トップクラス：最先进，一流

きわ
極めて：极其，非常

ぞくぞく：陆续，不断

いきお
勢い：气势，势头

かなり：相当

と
か
取って代わる：取代

わりあい
割合：比例

わくぐ
枠組み：框架，结构

はぐく
育む：培养，孕育

句型作文の練習



1. ～によって：通过～（方法）

それによって日本の文明をつくってきた。／由此创造了日本文明。

接续：N

含义：で（方法）

例句：●話し合いによって解決しよう。

●コンピューターによって、事務が効率化した。

练习：●インターネットによって、世界各地の情報を_____ようになった。

●今回の調査によって、多くの事実が_____。

2. ～ず（に）：不～

生のままのヨーロッパ語を使わず、ヨーロッパ語を……／不是直接使用欧洲语言，而是把欧洲语言……

接续：V [ない]

含义：～ないで

例句：●彼女は何も言わず、部屋を出て行った。

- 朝ご飯を食べ**ずに**学校に来る子どもたちが増えている。

練習：● 昨夜は疲れていて、_____ **ずに**、寝てしまった。

- 勉強もせ**ずに**遊んでいると、今年も大学受験に_____よ。

3. ～に - あた(当)って／あたり：在～的时候，在～的情况下

ヨーロッパのいろいろな概念をもちこむ**にあたって**、……／在引进欧洲的各种理念时，……

接续：N

含义：（何か重要なことが）～する前に

例句：● 開会**に当たり**、一言ご挨拶申し上げます。

- 出かける**にあたって**、戸締まりを忘れないようにしてください。

練習：● 卒業**にあたって**、みんなで_____ませんか。

- 結婚相手を選ぶ**に当たって**、私が一番重視するのは_____。



扫描二维码
查看译文

02 日本語の一人称はなぜ多い

いちにんしょう

あらためてわが日本語をかえりみると、ただちに気付くのが「わたし」という一人称の多様さである。日本語（ a ）一人称代名詞に多くのバラエティーを与えている言葉はほかにはないのではあるまいか。「わたくし」「わたし」に始まり、「ぼく」、「われ」、「おれ」、「自分」、「手前」、「うち」、「わし」、「それがし」、「吾が輩^{わ はい}」、「当方^{とうほう}」、「こちら^{しょうせい}」、「小生^{しょうせい}」、さらに「あっし」とか「あたい」とか、「わて」とか、「おいら」「ちとら」といったものまで加えれば、その数、ゆうに20を越えるという。英語やフランス語、ドイツ語などでは一人称の代名詞はそれぞれ、I、Je、Ichたった一語である。（ b ）日本語には、なぜこんなにたくさん「自分」をあらわす言葉があるのか。それは日本人が他の民族よりも、ひと一倍「自分」に注意を払い、「自己」に深い関心を持っていることを語っているのだろうか。

端的^{たんでき}に言えばそうである。しかし、（ c ）日本人に自我意識^{じが いしき}が強いとは必ずしもいえそうにない。いや、（ d ）欧米人に対して日本人は「自分」を主張^{しゅじょう}することがずっとひかえめであり、日本では「個人^{せいうじん}」という意識、「我」の自覚^{せいさく}が西欧人にくらべてかなり（ e ）というのが「通説^{つうせつ}」になっている。（中略）

① じつは日本人の自己意識^{じ こ いしき}は他民族、たとえば欧米人のそれとは質的に異なっているのである。ヨーロッパ人は自分というものを、実体的にとらえようとする。自分というのは、それこそ、かけがえのない存在であり、独立した一個の人格と信じている。ヨーロッパの哲学^{てつがく}が古代ギリシアのむかしから一貫^{いつかん}して求めてきたのは、ただひたすら「自分」というものの本質であった。「なんじ自身^{（注1）}を知れ！」というデルフォイの神託^{しんたく}を哲学の出発点としたソクラテス、「われ思う、ゆえにわれ在り」を哲学の原点^{（注2）}に据えたデカルト、「人間とは自分の存在を自覚した存在者だ」とするキルケゴール^{（注3）}……② ヨーロッパの哲学史は、「自分」という実体へ向かっての旅だったといってもよい。

それに対して日本人は自分という一個の人間を実体としてではなく、機能として考えてきた。個人はけっして単独に存在するのではない。つねに「世間^{よおぜい}」で他の多勢^{おほぜい}の人たちとさまざまな人間関係のなかで生きるのだ——というのが日本人の人間観^{じんげん}の前提^{ぜんてい}だった。げんに「【 ア 】」という言葉自体^{じたい}がそうした考え方を正直に語っている。この言葉はいうまでもなく中国から受け入れた漢語であるが、この漢語の意味はもともと人間の世界、すなわち「世間」ということなのである。ところがそれが日

本ではいつの間にか「人」そのものをあらわす言葉になった。ということは、日本人にとって「世間」も「人」も同一のように思われていたからにちがいない。

(中略)しかし、多くの異民族が同居しているのが常態であるような他の国々とは違って、日本はきわめて同質的な社会であり、自然のきびしさも、社会のきびしさも、ほかとくらべればずっと気楽なものといえる。そして、日本人の人間観や「自分」意識は、③このような風土の産物といってよい。こうした社会では、④人びとは自分を主張し、世間と対決して生きるよりも、自分を顧み、世間という人間関係のなかでの自分の立場をつねに意識して、社会に協調して生きようとするのである。

日本語で一人称の代名詞がこれほど多いというのは、まさしくこのような事情によるのではなかろうか。というのは、日本人の人称代名詞は時と場合によって使い分けることによってその数をふやしていったとみていいからである。つまり、「わたくし」とか「わたし」とか「ぼく」「おれ」あるいは「こちら」「当方」といったような自分をいいあらわす言葉は、話す相手によって使い分けられ、微妙な人間関係を証言しているのである。(中略)じっさい、日本人である私自身、相手によって「わたし」というべきか、「ぼく」というべきか、「おれ」といってもいいか、それこそ無意識のうちに心を配っているのである。

(もりもとてつろう
森本哲郎『日本語 表と裏』新潮社、1985年)

(注1) なんじ自身を知れ！：アポロン神殿に刻まれた言葉。「自分が無知であることを自覚し、その自覚に立って真の知を得、正しく行為せよ」(三省堂『大辞林』)などと解釈される。

(注2) デルフオイ：古代ギリシャの町。アポロンの神託が有名。

(注3) ソクラテス：古代ギリシャの哲学者。

(注4) われ思う、ゆえにわれ在り：デカルトの言葉で「思考の内容は疑うことができても、思考する私の存在は疑うことはできない」という意味。

(注5) デカルト：ルネ・デカルト(1596～1650)。フランスの哲学者。

(注6) キルケゴール：セーレン・オービエ・キルケゴール(1813～1855)。デンマークの思想家。